

地域の歴史を伝える文化遺産

このパンフレットでは、おもに指定文化財や日本遺産など、国や道、市によって価値が評価された文化財を紹介しています。そして、小樽にはまだまだたくさんの歴史的・自然的な文化遺産が存在します。

『小樽市歴史文化基本構想』（小樽市 / 平成31年3月策定）では、地域を構成する、多様で、価値の高いと考えられる文化財を、指定されている・いないに関わらず「小樽文化遺産」と名付け、ピックアップしました。

「小樽文化遺産」は、「小樽らしいものごと」とも言い換えることができます。その中には小樽を訪れる人々の考える、運河、ガラス、オルゴール、すし、雪などの「小樽らしさ」にまつわる文化遺産に加え、一見すると些細なものごとに見える、小樽に住む人々の生活に密着した祭礼や家庭に伝わる伝統的な料理なども含まれています。

このような地域遺産は、全道的・全国的な評価には至らない物であっても、地区にとってはかけがえない遺産になり得ます。つまり、指定文化財のあらず「小樽らしさ」は全体のごく一部分で、地域遺産を含めた周辺環境に宿る「小樽らしさ」も、小樽を形づくる重要なピースの一つと考えることができます。

これらの「小樽らしさ」を体現する文化財・文化遺産は市民共有の財産であり、次世代に受け継ぐべき遺産です。小樽文化遺産の保存・継承の体制の中心にいるのは市民です。市民が暮らしの中で小樽文化遺産に対する関心を持ち、それらに対して行政を含めた小樽市全体で情報を共有し、市外から訪れる人々に対し「小樽らしさ」を伝えるには、地域遺産を含む文化財を市民一人ひとりが誇りと愛着を持って継承していく必要があります。

小樽では、すでに多くの市民が文化遺産の保存継承の担い手になっています。運河のごみ清掃や文化財の解説・管理などのボランティア活動を行うことなどはもちろん、歴史文化に係わる講演会やイベントに参加したり、歴史的建造物を活用したレストランで食事を楽しむことも、立派な文化財の保存継承活動の一環です。また、市内の一部の地域では、町内会などを通じて自分たちの暮らす地区の文化財の掘り起こしや調査に取り組んでいる例もあります。

